

### ○13番（前田法弘君）〔登壇〕

お疲れさまです。19人の質問者がありまして、18番目、本当に皆さんお疲れさまでございました。もう1人残していますので、それまで御辛抱ください。

ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、これから私の一般質問をさせていただきます。今回、一般質問に先立ちまして通告したのは、大きなテーマとして、新しいまちづくりについてであります。まちづくりは人づくりが大事であります。人なくしては、まちの形成はありません。成り立つものでもありません。そこに住んでいる人たちの安心・安全を考え、守っていくには、議会と行政の責任は重大です。

さてさて、今回の一般質問は、先ごろ武雄町のまちづくり協議会で、平成20年5月に武雄町内の全戸を対象に住民参加のまちづくりアンケートを実施いたしました。寄せられたその回答を事務局で集計、分析を行い、逐次協議会だよりとして市報とかに挟めて配られておりました。町民の皆様にお知らせをしております。そして、そういう声を今回この「武雄町民の声」という1冊の本といたしますか、まとめられました。この声をもとに今回は質問を進めさせていただきます。

さて、このアンケートは武雄町内の5,372戸のうち、回答をいただいているのは、1,101世帯からの回答をいただいております。

質問内容といたしますか、この設問の内容であります、「まちづくりとは、地域の生活課題を住民が共通に認識して、解決と発展の方向、また、その方法を協働で探っていくということ」と言われております。

そこで、この質問の1として、「あなたは武雄町に住んでいて、こういうところが問題だ、こういうところがよくなれば、もっとよくなると思うことは何ですか」という生活課題であります。

質問の2番目として、「私たち武雄町の住民は、どのようなまちづくりを目標としたらよいと思いますか。キーワードでもよいのでお書きください」という将来像であります。

3つ目に、その目標に向かって、あるいは地域の生活課題を解決するために、今度各町に交付されます地域交付金、武雄町の場合は720万円をいただくようになっております。それを活用して、どんな新たな活動、事業を行ったらよいと思いますか。つまり、武雄町をよりよい町にするために、町民全体で取り組んだほうがよいと思われることは何ですかという設問。

次に、質問4番目に、武雄町民が取り組むまちづくり事業を計画していますが、ハード面——施設面ですね。これらは行政にお願いしたいこともあると思います。これについては、何々を要望するということがあれば、具体的に書いてください。

5番目に、「そのほかに何でも結構ですので、武雄町についての意見、要望をお書きください」。

この5つの設問で、これは全部書き込むようになっていきます。この設問でアンケートをいただいたわけでありませぬ。

そこで、市長にお尋ねをいたします。

1つ目に、このアンケートに目を通されましたか。

2つ目に、これについて、参考にして必要なところを取り上げることはなさいませぬか、なさいませぬか。

3つ目に、市役所とは市民の役に立つところと書きます。それでも住民の多くは、何でんかんでんこいもしてくれ、あいもしてくれ、いろんな要望が多いと思われませぬ。この声の中にも、いろんなことが書いてあります。事務局のほうで取捨選択することなく、すべてをこれに書き込んでございませぬ。中には長文になったものを要約して書いてあるものもあるように聞いてございませぬ。

このアンケートの回答集はどのくらいかな。――すみませぬね、借りてくるわけにいかんもんで。原文ですので、もちろん無記名です。どこのどなたがお書きになったかわかりませぬ。もちろん武雄町民であります。見せていただくわけにはいきませぬので、そのファイルだけ見ましたけれども、このくらいの厚みのファイルが3つありました。それを抽出してこれに書いてございませぬ。

今言いましたように、いろんなことをしてくれという要望が多いと思われませぬ。しかし、まちづくりの基本理念は、自分たちのことは自分たちで決定し、そして行動することだと言われませぬ。しかし、それでも住民ではどうしてもできないことがたくさんあります。その場合は、住民の行政に対する要望、これにはこたえていただかなくてはなりませんし、そこでお尋ねをします。この冊子の「武雄町民の声」に載っている内容で、これは市の責任で検討して処理していかなくてはならないことだという項目がありますか、ありませんか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

「武雄町民の声」、私も今武雄町民でありますので、市長という立場と住んでいる立場で両面から拝見をいたしました。まず、見たかどうかについては、見てございませぬ。そして、参考にするかしないかというのは、参考にいたします。そして、市ができるものについてはあるかどうかというのは、ちょっと何分の1かというのは分析しなきゃわかりませぬけれども、多くの部分あるなというふうには思われませぬ。

以上でございませぬ。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

まちづくり協議会、そして会長に聞いてまいりました。会長ってまちづくり協議会の会長ですよ、どっかの会長じゃないです。この町民の意見、そしてこの要望、いろんな声がありますが、これをどうするつもりですかとお尋ねをいたしました。で、会長の返事は次のようなことでした。

1つ目に、町民にこのアンケートの回答を熟読してもらい、個人で、そしてまた、それを自覚して解決しなければならない問題は、各個人で解決してほしい。それを強力に願います。それを強力に願います。

2つ目に、自治区や各種団体、このまちづくり協議会にはたくさんの団体も参加をされております。それらの自治区や各種団体の問題点であれば、その団体、その組織で議論して解決の道筋を立ててほしい。団体のリーダーにお願いをするつもりです。

3つ目に、この協議会での課題があれば、理事会などで議論し、解決の方向を見出していきたいということでもあります。

4つ目に、しかし、その3つ、個人、団体、自治区、協議会、どうしてもそこで解決できない課題については、要望という形で行政にお願いをするということでした。

そこで質問であります。まちづくりとは、住民の一人一人が自覚し、行動し、小さなことから一つ一つ解決をしていくこと。そして、その一方、リーダーは個人の声に十分に耳を傾け、大事にして、不平不満の解消に努めて、安心して暮らせる、そのようにすることだと思えます。市長はこのことに同意していただけますか。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

やや私は異なります。私は、まちづくりというのは、これだけ価値観が多種多様化していると、ある人にとっては正解かもしれない。しかし、ある人にとっては、これは自分は不利益をこうむるのではないか、満足している人でも、2割の満足でも、ある人にとっては7割かもしれない。非常に難しいのがまちづくり。で、全体今まで、例えば高度経済成長期、あるいはバブルのとき、パイがどんどん膨らんでいくときというのは、不平ということになるべく、いや、じゃあ次これをやりますからということで解消できたと思うんですね。しかし、今どんどん財政であるとか人であるとか、パイが縮小している中で、私は1つのキーワードを持ってあります。これからは満足よりも納得であると。やはり満足をしていただくというのはなかなか難しい。しかし、納得ということであれば、それは個々人の価値観が違えども、私はよくやっているじゃないかと、あるいは頑張ろうって、そこに私はこれからのまちづくりの大きな哲学が変換していくものだというふうに思っております。

これは、私は受け売りであります。北方町で一生懸命まちづくりをされている山口さんという方から聞いたときに、もう目からうろこが落ちる思いでありました。私もこういった思

いでリーダーとして市政運営に当たっていかうと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

協議会では、このアンケートについて次のように評価をしています。

アンケートに回答することによって、町に対する関心が沸いて、そして意識を高める。そのことに役立ったと思うと。

2つ目に、これによって町民が何を考え、どんなところに不平不満があるか。曲がりなりにも全体の雰囲気、空気、そういうものは読み取ることができた。

3つ目に、住民はこの武雄に強い愛着があり、自分たちが住んでいるまち、それを、将来をこんなまちにしたらいいという希望、願望、夢があることがわかった。

結局のところ、今までこんなに多くの本音の声、意見を集約したことがあつたらうかということをおっしゃっております。

それぞれに価値観が今多様化しております。そのばらつきは確かにこの声の中に入っております。しかし、その声を万民すべてが認めることはないでしょう。少しでも多くの方たちの夢、希望、そして、その将来ということについて、前向きに一緒に考え、進んでいきましょう、そういう声のあらわれと私は解釈いたします。

そこで、このアンケートに書き込まれていることについて、順にお尋ねをしてみたいです。もちろん順番どおりにはならないかも知れませんが、それはお断りしておきます。

まず、温泉通りであります。これは温泉通りという項目もありますので。

ここには、温泉通りは商店も閉まり、活気がない。――箇条書きに書いてありますので、そのとおりに読んでいきます。立派な楼門があるのにもったいない。温泉を核にしたまちづくりが必要。また、通りは専門店街があり、そしてベンチがあり、ゆっくり散歩しながら買い物ができるようなまちづくりが必要と思うなどというのがあります。温泉通りの振興については、どのようにお考えでしょうか。

そしてまた、関連していますので、次に、店舗という項目があります。お店ですね。

大型店の出現により、生活物資の購入が不便になった。商業施設がふえたが、需要と供給のバランスが悪く、苦勞しているところもある。老人が生活用品を買いやすい店を北部商店街に出してほしい。南部のスーパーにはしょっちゅうは行けない。鉄道跡地に道の駅をつくってもらいたい。南部の大型店進出により、温泉街が衰退している。本気で北部市街地の再生の努力をしないと、新幹線が開通したときにはまちは死んでいる。まさに北部地区に住んでいる方たちの悲鳴のように聞こえてまいります。商店街対策についてはどのようにお考えでしょうか。

次に、土地区画整理事業についてであります。

松原本町の努力は認めます、市でも良策を。まちの核がない、松原通りの再開発を。区画整理事業の早期推進、社会資本の整備なくしてまちの発展はない。

市長はもう二、三回お答えはいただいておりますが、ここでもお答えをお願いします。市長は松原地区に出かけていかれて、区民の方たちとひざを交えてお話をして語り合っていたそうではありますが、いつ、どのようなところに行かれたのでしょうか。また、どんなお話、提案をしていただいたのでしょうか。

もう1つ行きましようね。新幹線の項目もありました。

新幹線が来ます。来たときには、それだけの整備が済んでいなければならないと考えますが、特に北部市街地は観光都市武雄の顔と考えます。新駅が完成して区画整理が終わる。その後のビジョンはありますか。

特に駅から松原温泉通りについてであります。観光客が訪れるようなまちづくり、レトロなまちづくり、温泉街で観光客が楽しめるまち、観光施設の充実、遊園地、歴史的散歩ルートの活性化、散策路、遊歩道整備、楼門周辺に大型バス駐車場、公衆トイレ、飲食店、お土産店、観光案内所の常設——観光案内所はありますね。駅周辺に足湯。いろいろな意見というか要望、考えがあります。取捨選択とおっしゃいましたけれども、そういうこともしていかななくてはいけないでしょうが、それらの4点について、どういうふうにお考えですか。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

私からは2点お答えいたします。

まず、松原地区の役員会につきましては、8月12日の夜、役員会に出向きました。松原の公民館だったと思います。そこに地区の役員の方々とひざ詰めで、さまざまな話を本音でいたしました。資料については、我々の松原地区のこういうふうに変わっていくのではないかとイメージ図を出して、本当によかったと思います。忌憚のない御意見と、そして、我々がちょっと勘違いしている部分もありました。多少の細かいところですがあったので、やはり顔と顔を突き合わせるというのは、非常にいいことだなと思いました。役員会には、またちょっと出向いて親しくお話をさせていただければありがたいなというふうに思っております。非常にいい雰囲気だったというふうに思っております。

それともう1つ、新幹線の通った後、ちょっとその前になるかもしれませんが、そのビジョンであります。私はこのように考えております。今まで市長になってから、どういったところにじゃあお店ができるんだろうかということを中心に、前田議員には負けませんが、勉強をさせていただきました。

その結果、1つ結論が出ました。単純です。人が流れているところは店が張りつくということであり、店がそこに張りついて、人がじゃあ来るかと。今までのバブルのときだ

ったり高度経済成長期はそれでよかったんですね。魅力的なお店があったら、そこに人がやってくるということだったんですけど、今はどう見てもうまくいっているところは、湯布院なんかもそうです、黒川もそうですけれども、人が流れているところに次々に、流れている層に従って店ができていくという流れになっています。湯布院では、今韓国の観光客が物すごくふえているそうです。ですので、その流れに沿って、今ハングルのお店がどんどんできています。なるほどと思いました。

私とすれば、これはさまざまな見解の相違はあると思いますけれども、やはり病院です。病院をきちんとしたものをつくることによって、ここは検査のPETとか、またMRIとか入ると思います。私はその病院の近くにホテルがという進出の話も聞いております。それだけでは到底足りません。そういう意味で、この患者さんであるとかお見舞いであるとか、さまざまな方々の往来がふえていくように仕掛けをしなきゃいけないと。だから、チャンスだと私は思っております。

そういった上で、温泉と今度新たな病院ということが、保養になるのか、あるいはお見舞いというのがいいのかどうかを含めて、それはきちんと考えていくべき必要があると。だから、私としては、医療、福祉を中心としたまちづくりということで、少しまちづくりのあり方というのをそちらのほうに進化させていきたいと、このように考えております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

#### ○前田営業部長〔登壇〕

温泉通りを含めた中心市街地の商店街の対策でございますけれども、これについては、ちょうど平成10年ぐらいに中心市街地の活性化法ができて、これについては、国の支援、県の支援、市の支援ということで、ちょうど高架がスタートをした時期だったと思います。その時点では、商工会議所を中心に北部の商店街、3カ所ございますが、その方たちも高架にあわせてまちづくりを一生懸命やっていたということで、そのときはかなりの意気込みがあったと思います。しかしながら、これについては全国的に佐賀市、ほかの地区も同じですが、いろんな支援をしても、なかなか活性化をしていないという状況で、武雄についてもそういう状況だと思います。今までいろんな県の支援、国の支援をいただきながら助成なりしてきたわけですが、それをやっても、なかなかいい対策が打てないというのが今の状況でございます。

1つには後継者の不足、あるいは郊外店の進出、そこら辺問題ございますが、まずは、温泉通りは特に温泉がございますので、温泉の観光客を利用した形の店づくりとか、それから、もう1つは、北部に住んでいる方が地元でまず買い物をするというのが私は原点だと思います。よそからお客さんを求める前に、そこに住んでいる方がその店を支えていくと。それがまずあって、その商店街が成り立っていくというふうに考えます。

それから、もう1つは新幹線の関係でございますけれども、これについては、新幹線の開通後、武雄市においては官民を挙げた活性化のプロジェクトを立ち上げておりますので、その中でいろんな議論をして、10年先と言わず、できるものについては、もう早く実施をしていきたいということで考えております。いろんな意見をその中で出していただきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

区画整理について御説明いたします。

区画整理につきましては、市長が先ほど申しましたとおり、集約換地の提案を今したところでございます。この集約換地をすることによりまして、高齢人口につながるような施設の誘致ができるんじゃないかなろうかというふうに考えております。

それとあわせて、この集約換地をすることによって、建物移転が短期に完了するんじゃないかなろうかというふうに考えております。それが短期に済めば、社会資本の整備という要望が今ありましたけど、そのほうも短期の間に済むと。地元としては早くせろということだったものですから、それに、これがもしも皆さんの同意が得られたら、短期完了という形で願いにかなうんじゃないかなろうかというふうには思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

その区画整理のほうは、この間まで市長には大変お忙しいでしょうけど、ぜひお話をしてくださいという願いをしております。市長が役員会にお見えになって、大変よかったと、うれしかったと、市長と話ができてよかったということをおっしゃっておいりました。ですから、そのこともぜひ市長に対してお礼を言うとかんといかんと思ひまして上げましたし、また、換地のほうもスムーズに行けばいいと思います。地権者の皆さん全部と私は会ったわけではありませんが、何人かとお会いしましたけれども、協力をしていくというお声も聞いております。その地権者の方からこれも見せてもらいました。あくまでも地権者から見せてもらいましたからね、都市計画課からいただいたものではありませんから。絵であります。いろんな考えで市長のほうも提案をされていますので、一日でも早くそれが行きますように思っておりますし、そういうまちづくりのために、ぜひまた今後ともお願いしていきたいと思ひます。

ただ、北部の商店街、お店がなくなっていったというのは、何もそのお店が努力なくしてやめていかれたというわけでもないわけです。これはもう社会が変わっていますから、南部

に大きなお店ができて、そしていろんな経済も変わっています。コンビニがあればそれで済むような生活にもなっているし、一生懸命戦前から武雄の北部のほうで、もちろん当時は北部しかありませんからね。北部のほうで御商売をされている方、その方たちも、きのう谷口議員御紹介されていまして野菜屋さんがなくなった。こう考えてみていたら、武雄町、魚屋さんは何軒あるかなと思ったんです。何軒あると思いますか。私が知っている限りでは2軒です。もちろんほかにあったかもわかりませんがね。もっと魚屋さんあったごた気のあるですもんね。もちろん野菜屋さんもです。しかし、スーパーに行けば切り身で売ってある。もちろん魚屋さんとスーパーでは値段も違ひましよう。もちろん生活がかかっていますから、お魚も1匹買うよりも切り身で買ったほうがいい、そういうふうと考えていけば、そういうお店に寄ってくるし、だから、いろんな情勢の変化によって、商売人さんたちはそれぞれの対応をしていきながらも、もちろんさつき部長がおっしゃいました後継者の問題もあります。そういうことで、少しずつその明かりが消えていく。最近では、青果市場も閉まりました。これも時代の流れでしょう。その時代の流れに流されまいと一生懸命生活をしている人たち一人一人が、この声として出ているということもお考えください。

6月議会でもお尋ねをしましたが、新幹線の工事事務所、この話はどうなったのでしょうか。そのときの答弁では、市長はまだわからんということでございましたが、どうなったかをお尋ねしますし、その新幹線工事、まだ工事の発注とかなんとかは全然あっていないでしょうけれども、地元業者の活用についてもアクションをとっていただいていると思いますが、お尋ねをします。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

新幹線の現場工事事務所については、武雄市に設置することになりました。これは私は困難だということをさきの議会答弁で申し上げていましたけれども、杉原議長、石丸県会議長、そして稲富県会議員と私とでさまざまところに手分けをして、国交省であるとか自民党であるとか、特にこれは福岡の古賀誠代議士にも本当にお世話になりました。その結果、これは極めて例外的だと思いますけれども、武雄市に設置することになりました。大村市と武雄市2カ所に設置というふう聞いております。

今後でありますけれども、先ほどお尋ねのあった市内業者の積極的活用については、既に建設業協会、商工会議所とともに、佐賀県、鉄道建設・運輸機構に対して要望を行っております。そのときに、要望時における鉄道建設本部九州新幹線建設局長の話は、このとおりであります。「下請等については、地元業者の活用を指導していく。道路つけかえ等、市に委託できる工事は市に委託していく」ということであります。

なお、当初の事務所面積は30平米程度、佐賀県側の工事が始まれば、150平米程度で職員



五、六人をまず配置をすると。最大時には400平米程度の事務所を2棟、土木と設備関係分かれてつくるということで、今既に国交省、この機構と、どこにしようかという協議を事務的にはしております。私も、また東京出張の際には国交省、鉄道建設・運輸機構等に行って、本当に武雄にきちんと、これは言い方は悪いかもしれませんが、お金が落ちるようなことを誠心誠意やっつけていこうと思っています。私の意識としては、これは1つの企業誘致が1つ成功したという理解しております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

よかったよかった。私もこれは企業誘致だと思いますよ。言い方は悪いと市長おっしゃいましたけどね、少しでもお金が落ちればいいじゃないですか、このことで。だれにも被害は与えない。ごめんなさい。数字の規模で言われてもぴんとこんとですけども、400平米って大体どんな感じですか、ここら辺の建物で例えて言えば。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

事務所については、先ほど市長が言いましたように、当初は無人で30平米程度ということで、福岡のほうから通ってくるということで、五、六メートル真四角ですか。それから、400平米といいますと、約120坪ぐらいですから、そうですね、それくらいです。量が……（発言する者あり）

それで、この市内業者の育成の関係については、ちょうど昼休みにうちの課長から情報が入りましたが、商工会議所とか、それから県の商工連合会等で市内の業者、県内の業者のリストをつくって、機構のほうに提出をするというふうな話になっておるようです。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

はい、大丈夫でございます。

それでは、次に行きます。

次に、標識、道案内表示等についてであります。

案内標識が少ない。特に各区の境界、区名、番地の表示。町名、区画を整理してわかりやすく。歴史と文化を標識で案内するとか、案内板、道案内、散策路の看板、各所めぐり道案内の設置、統一性のあるものをまちの要所に外国語も添えて、お客さんによく道を聞かれるので、ユーモアのあるもの。御船山、桜山、楼門などを大型看板で。地区の表示板——永島

区とか昭和区とか、そういう表示板。それから、道案内の設置、案内板が不親切、標識がな  
くわかりづらい、名所旧跡を散策できるような地域の歴史文化説明案内看板の設置。ウォー  
キングコース等の案内板の設置などがあります。観光客を駅から北部商店街などに導く観光  
案内板、それも含めてであります。これらの案内看板ですか、それらについては、どんな  
計画になっていますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

まず、市街地を含めて武雄町内関係の看板につきましては、ことしじゅうにサイン計画と  
いいますか、そういう計画書を観光課のほうでつくってみたいということで、特に来年は駅  
が全体的に完成しますので、その駅を中心に、例えば温泉に行くとか、そういう施設の案内  
も必要ということで、そういうことで、ことし中にそういう計画書をまずつくるとい  
うことで考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

まだ計画書の段階ですね。あちこちばらばら立てますと統一がありませんから、ちゃん  
とした計画の中で、まちづくり交付金でそれを計画するというのが、もう何年も前からず  
と繰り返しで来ているように思うんですよ。このことは私もずっと言っていますし、もち  
ろん北部の区画整理と、そして新幹線ももう間近——間近って10年先でしょうけど——新幹  
線は別としても、高架ができ上がって、案内板、そういったものは必要でありますので、も  
う声にもたくさん上がっています。何もこれは武雄町の人たちだけの声ではないと思いま  
す。

それで、この今読み上げましたその中に、町名、区画名、そして地区の表示板。今さっき  
言いました昭和区とかね。電柱にはよくありますよね。ここは昭和の何丁目何番地とか、電  
柱の広告板の電柱看板の下のところにちょこっと書いてみたりしていますけど、そういう  
ものは何も考えておられませんか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

町名につきましては、私の公約、具約にも触れさせていただいておりますけれども、例  
えば武雄町の大字富岡の七千七百何とか番なんですけれども、これ、非常に外から観光する人、  
あるいは新しく住んだ方がわかりにくいということは、私が市長になる前から聞いており  
ます。したがって、例えば、私が住んでいるところだったら西浦、隣町の宮町、新町であ  
るとか、桜町であるとか、そういう旧町名を復活させることは、今のところ郵便局と今最終

調整に入っております。したがって、なるべく7700番とか、私の実家は一万二千何百番とか、そういう大きな数字じゃなくて、例えば、西浦の5-3であるとか、そういうふうにしていきたい。そういうことで、地名を愛することがその地を愛することだというふうにはなると思っています。本町であったり、蓬萊町だったり、非常に素晴らしい地名が武雄にはあります。そういう地名を復活させることで、繰り返しになりますけど、自分たち、そしてその土地を愛する心、すなわちまちづくりを推進する原動力の一助にしたいと、このように考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

よろしくお願ひします。そのとおりだと思いますので、そこんところは本当ですよ。何だっけな、何とか大字何とか、千何番がこら辺にあったかと思うと、隣はもう1番とか2番とか、極端にころっと変わって表示されていますので、非常にわかりづらいと思います。

それでは、次は線路の撤去と踏切の撤去、橋の撤去についてお尋ねをします。

開通後の駅周辺、高架、区画整理と書いてあるとね。開通後の整備、ガードの撤去、旧踏切付近の整備、信号設置、高架下の利用方法はいつごろ、計画を詳しく知りたい。市報などに説明を願うとか、そういうことが書かれておりますが、これも先日の質問と同じでありますけれども、ガードの撤去は何カ所あって、いつごろでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

西浦のガード、これにつきましては、もう発注がされております。9月1日に契約されて、工期は9月2日から3月1日まで。ただ、このガードは先日も申しましたけど、全部で14カ所、その14カ所を3月1日までに撤去すると。この中で、西浦のガードにつきましては、9月いっぱい上部工の完了は終わるということでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

後楽園のあそこのガード。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

あそこも3月1日までの工期の中には入っていますが、そこの分がいつ終わるかというのはちょっと確認しておりませんので、御了解を願いたいと思います。

〔13番「確認してください。後で教えてください」〕

はい、後で。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

この間説明しよんさったときに私も聞きよりましたが、橋梁の上部工とか下部工とか、私もわからんとですよ。そいけん、その上部工、下部工、非常に専門的におっしゃいますので、テレビをごらんの方も、「何やそりゃ」て言いんさあときのあつとですよ。そいけん、そこんたいわかりやすく説明をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

西浦のガードを例えて申しますと、西浦のガード、何と言うですか、線路の立橋が緑色のどーんと真横に走ってるですよ。通常建物なんかで言うたらけたと言うですけど、あれが上部工です。あれを今回外すと。外した後に、今度はそのガードを支えておった基礎があるわけですね。この基礎が下部工と分けております。いいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

そうすれば、橋の分が外されるのが9月1日で、ここのはりの柱になる部分、そこが……。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

上部工は今発注されております。ただ、下部工についてはまだ発注されておられません。それで、土木事務所のほうに確認しましたところ、今設計中ということでございます。それで、発注につきましては、年内に発注して、年度内には完了したいという計画で今進められております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

そしたら、その柱のところば斜めに削っていくんですか、それとも、ばさっともう、そこんたいいっばいなくなるんですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

下部工の工事には、上部工の基礎、これのほかに、ちょうど在来の今までの鉄道敷が土手になっとなつてますよね。この土手の泥の撤去も、その下部工の工事と一緒に出すと。ですから、今回西浦の辺のところになれば、西浦の旧国道の道路の高さまで土手がなくなるということでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

すみません、そがん説明してもらうぎんたわかりやすかとですよ。ありがとうございます。そいぎあそこ、県道並みになあということですね。はい、わかりました。それでは、そこま  
で聞けばよろしいです。

そいぎんた、次がふるさと納税についてであります、このPR広報はどのようにされて  
いて、また、その使い道はどういうふうにされていますか。

**○議長（杉原豊喜君）**

角企画部長

**○角企画部長〔登壇〕**

ふるさと納税制度につきましては、5月1日から始まっておりますが、これまでケーブル  
ワンでの市役所だより、それから広報「武雄」、それから市のホームページで専用サイトを  
設けてPRいたしております。それから、お盆の帰省時でございますが、県外から帰ってこ  
られる皆さんに佐賀県と一緒に佐賀空港で8月13日と16日、PRをいたしております。それ  
から、武雄市独自では、武雄温泉駅で8月13日、8月16日に単独でビラを配っております。

今後の予定でございますが、10月18日に武雄高校の100周年記念式典が予定されてお  
ります。そこにおいて、できればブースをつくらせていただいて、PRしたいというふう  
に考えておりますが、ここでおわびを申し上げたいと思っております、私たちの実行委員会  
に対する説明が十分でなかったということで、関係の方に御迷惑をかけたことを、ここ  
でおわびいたしたいと思っております。今後も正月の帰省等で帰ってこられる方にPR  
をしていきたいというふうに考えております。

寄附金の使途でございます。現在のところ、県外から5名、それから県内から3名、合  
わせて8名の方に御寄附をいただいております。総額102万5,000円でございます。寄  
附者の御意向を踏まえて、武雄市のまちづくりに有効に使っていきたいというふう  
に考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

市長はこのふるさと納税について、どういうふうにお考えですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

まあ60点かなと思っております。最初我々が思っていたのは、税控除ではなくして、もっと大規模なものだというふうに総務省等から説明を受けておりました。それがいろんな調整があったんでしょう、第1段階としてこういう制度があったと。ただ、ふるさと納税という言葉がいいので、考えるきっかけになったというのは非常にいいと思います。今後はもう少し自治体のほうにお金が動くような制度を国と一緒に考えていく必要があるだろうというふうに思っております。

いずれにしても、せっかくある制度なので、一生懸命生かしたいというふうに思っておりますし、これは佐賀新聞にも載っておりましたけれども、武雄は非常に愛する人が多いんでしょう、多額の寄附が集まっております。そういう意味で、この動きを加速させたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

いろんなところの新聞記事にも、何かプレゼントをあげるとか、そういうふうなこともありますけども、まあどうかと私は思います。これは、もうこれでよろしいです。

次に、公用車に広告を出しませんかとホームページに出ておりましたが、これは一体どういうことでありましょうか。これが市の財政とか、そんなに影響はないかと思いますが、どういふふうなことでこれを出されたのか、あわせてお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

この公用車広告につきましては、多分6月議会で4番議員からも御提案あったかというふうに思いますけれども、歳入増の一環ではないかというふうな視点で早速取り組むことにしたわけでございます。その取り組みの中では、公用車の中で広域的に走行し、稼働率が高く、PR効果も高いという車種がどうなのかということで、まず市で保有していますマイクロバス3台、これを活用して広告を募集したいということで、この3台の側面、それから後ろの面10枠を確保して、今9月1日から募集をかけておるところでございます。これによりまして、10枠全部掲載していただきますと、約107万5,000円程度の収入が得られるというふうに思っております。そういったことで、財政収入にもつながる、それから市内業者のPRにも

つながるというようなこともございましたので、今募集をかけているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

松尾議員からありがたい御指摘をいただきましたので、これを踏まえて、まず3台のマイクバスのやると。これは一、二年ちょっと様子を見ようと思うんですね。これでもう少し、もっといろんなところに張りたいということであれば、それは徐々に広げていきたいと思っております。これが終息しないように周知をいろいろしたいと思っておりますので、ぜひ議員の皆様たちも、こういうのがあるよということをぜひお伝えしていただければありがたいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

県のほうもこういうのはやっておられますけれども、なかなか集まらなくて大変苦勞をされているようでございます。けど、これはいいことですから、私も前からこういうのがあったらいいとは思っておりましたので、ぜひお願いします。

それで、この100万円ちょっとあるようでございますが、地元の業者さんたちには、これ仕事は行くんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

当然広告ですので、側面に張ったり後ろに張ったりするデザインから、それから制作、これについては当然市内の広告業者さんたちに行く。当然我々も、指名を出していただいている業者の方については、応募していただいた方には紹介をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ありがとうございます。

次に、空き家でございます。空き家といいますと、空き家対策というか、要するに定住とはまた別の空き家であります。武雄のまちの中にも、だれも住んでいない家が目立ってきております。そこで、まずそのことでお尋ねであります。住宅土地統計調査というのがある

そうですが、これはいつどういった内容で調査をされるのでしょうか。それによって空き家の実態というのがわかるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

住宅土地統計調査は5年に1度実施されております。ちょうどことしはその年になっておりまして、10月1日から調査をするようにしております。

これは全世帯数の1割を抽出いたしまして、調査をするものでございます。ただ、これはあくまでも住宅の土地統計調査でございまして、空き家であれば、空き家として未処理をします。で、その2,000軒の中で空き家として調査が上がってきたのは幾らあるのかで、空き家率という形で統計調査の報告として上がってくるというふうに思います。ただ、どこに空き家があるかということとはわかりません。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

となれば、武雄のまちに空き家が何軒あるというのがわからんわけですよ。空き家にも当然税金はかかりよおわけでしょう。課税はされておると思いますし、そこで空き家が何軒あってということとはわからんとでしようかね。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

課税の調査では、あくまでも家屋として調査をしますので、空き家であっても、家屋として登録されている分には家屋という形でしか上がってきませんので、どれが空き家かということとはわかりません。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

それじゃあ、それでもわからんぎんた、空き家が景観を損なうということで、景観のほうで調査をされる考えはないですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

景観のほうで調査する考えはございません。

○議長（杉原豊喜君）



13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

景観を損なうというところも中にはあると思うんですけども、まあそれはそれでいいでしょう。

で、結局どこがこれは把握しているんでしょうかね。——というのは、何でお尋ねをしたかといいますと、これも町民の声にありました、空き家が目立つようになったと。何でかという、管理がよく行き届いていない。中には傾いたような家もあります。当然今はまだ暑いですから、そうでもないでしょうけど、冬に近づいていってだんだん寒くなってくると、いろんな人たちがいますから、そこでたき火をし出す、そこでたばこを吸う、そういうこともあるかもわかりません。周りに住んでいる方は大変怖いということも聞いております。と、いったところでの、そのときの対応、そういうことを考えた上でのであります、どこがどういうふうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

空き家を専門的といいますか、調査をするような部署は、市役所としてはございません。ただ、この空き家は、先ほど議員もおっしゃいますように、非常に火災とか犯罪の温床とかいう面ではいろんな危険なものもございます。消防関係で、杵藤地区の広域市町村圏組合の火災予防条例の中では、空き地及び空き家の管理ということで、消防署としては、危険要因の排除として空き家に自由な出入りができないようにさく等の設置、施錠の徹底などの命令を行うことができるということと、空き家に関する管理状況調査を実施することができるということで、お聞きしましたところ、まだこの調査は行われておりませんが、こういった調査ができるというようなことにもなっております。そういったところで、調査をするとしたら、こういったことを使った調査になるかと思えます。

ただ、いずれにしても、老朽化して管理されていない空き家については、やっぱりお互い情報を共有しながら、地域、市、消防署、警察署一体となって予防に努めていく必要があるかと思えますので、ぜひ市民の方々もそういった部分については、それぞれ地域の中でも目を配っていただければ幸いかというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ぜひ行政のほうとしても、消防とかそういったところにも、また警察にも問いかけて、市民の安心・安全を考えていただきたいと思えます。

次に、児童の安心・安全に行きます。

児童の安心・安全ですが、御船が丘小学校に児童が偏り過ぎ、本来の目的とは異なっている。武雄小学校と御船が丘小学校の校区割は見直すべき、子どもの安心・安全も考えてほしいという声があります。そのことについて、その状況、そしてまた、これをどういうふうに考えておられるかお尋ねをいたします。

あわせて、通学路改善を、八並、下西山、上西山、内町、桜町、宮野町など、また、武雄小学校の通学路は歩道がなく危険、それから、永島、野間コーポあたりの道幅が狭い、通学路なのに車の離合もできない。また、武雄小学校、武雄中学校通学路の整備、歩道がないということがあります。歩道幅が狭い道路などを通ってくる児童の登下校は危険だと思いますが、そのこともどういうふうに考えられておりますか。

先ほど申し上げました、この中に、先ほどの夏休み学校主催の算数教室、大変に助かっているという町民の声があります。武雄小学校の取り組みもあわせて紹介をお願いします。

#### ○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

#### ○浦郷教育長〔登壇〕

大きく3点あったと思います。

まず1点目の御船が丘小、武雄小の校区割に関する部分でありますけれども、分離して16年目を今日迎えておるわけでありましたが、御船が丘小学校については、約700名規模の開設当時の児童数が続いているわけですが、少子化の中でありまして、ほとんど人数変わっていないような状況であります。一方、武雄小学校については少しずつ減少してきているという状況がございます。

そういう中で、校区の状況が今変わりつつあるというところもあるわけですが、慎重に多大な労力を払って分離がなされました。状況の変化はありますけれども、現在のところ、学級数の変化にはつながっていないということもありますし、校長等も現状を確認した上で、現在のところ校区割を見直すということには考えておりません。

それから、2つ目としまして、通学道路のことですが、今議会におきましても、道路の話題につきましては、真っ先に子どもたちの安全のためにということで協議をいただいている状況があります。本当にありがたく思っております。当然通学路、狭いところもあるわけでありまして、教育担当者として、特に育友会、PTAに協力してもらって、点検をしてもらったり、危険箇所の把握をする。あるいは教職員が児童と通学路と一緒に歩いて危険箇所の確認、指導。それから、交通安全指導員の方々、保護者の方、老人クラブ、婦人会の方、地域の方々、本当に協力していただいて指導に当たっていると。これにつきましては、今後も引き続き協力をお願いしたいという思いがしております。

それから、狭い通学路ということは、学校近くであるわけですが、客観的に見ます

と、地域の方、市内の方の通行が多いだらうというふうに思っております。教育的見地からいきますと、車と車、車と人の離合も、究極、人と人の譲り合いでありまして、そういうこともまた大人のほうから手本を見せていく、会釈をして行き交うという、そういう教育的な面も、そんな楽観的な話じゃないわけですがけれども、そういう面も教育的価値としては考えていきたいというふうに思っております。

3つ目の武雄小学校の夏休みの取り組みということでございますが、各学校ともかなり学習会とかサマースクール、サマーセミナーという名称で、日ごろできない補足的な指導をやっております。武雄小学校の場合も、7月23日から25日の午前中にサマーセミナーとして1年生から6年生の希望者約100名が参加したと聞いておりますけれども、ボランティアティーチャーとして保護者の方や地域に住む教員のOBの方の協力で学習会をしたということでございます。

また、北方区で拝見しましたけれども、公民館に地域の子どもたちが集まって、またそこで学習会、交流会をしていただいていたという例も見まして、今後、ボランティアとして学校としてお願いし、協力をしていただくという方向は一つの方向かとして考えております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

#### ○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ありがとうございます。特に私、さっきの夏休みの学校主催の算数教室、ああ、こういうのが私の時代にもあったらよかったなと。そいぎもっとよか学校に行けたらなあと思っております。いや、助かっておられると思いますよ。助かるというか、喜んでおられると思います。ぜひお願いをいたします。

もう時間がないので、環境景観審議会については、次回にお尋ねしたいと思います。

そこで、お待たせいたしました、がばいばあちゃんであります。がばいばあちゃんのことでの声も、これにも上がっております。

11ページ、ドラマロケ地武雄と言われるようになりたい、テレビロケで税金を使ってほしくない、がばいばあちゃんは武雄のまちの発展になっていない、これに頼らず武雄の知名度を上げる、それから、がばいばあちゃんに頼り過ぎ、もっと古きよきものを大切に、とあるかと思えば、がばいの経済効果がよかった、がばいはよいが、川上周辺、神社周辺の環境は観光客をがっかりさせる、何でもがばいばあちゃんに頼るのはやめたほうがいい、ほかの市のがばいを武雄がなぜするの、武雄町本来の歴史の中から選ぶべき、がばいの一時的な宣伝効果でなく、生活向上のためにお金を使ってほしいとか、がばいばあちゃんにお金を使わないでとかあるんです。これはもちろんがばいでよかった、がばいをして効果があったという声もありますし、そうじゃない、別のことを考えましょうよという声もあります。最初から言いますように、いろんな声がこれには入っておりますが、これもそれも合わせて、今回の

また映画ロケが鹿島でありました。それと、今度またテレビがあるんでしょが、それに対する対応をどういうふうを考えておられるか、お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり中の評価と外の評価はがばい違うなというふうに思いました。これはがばいを本当に市民の皆さんたちとともに一生懸命やることによって、私はまちづくりと一緒にやっぺいこうという機運が芽生えたと思うんですね。これで外からの評価を言うと、もう飛躍的に武雄の知名度が向上している。そして、観光の場所にもよりますけれども、この前テレビで見えていたけど、あるお土産屋さんには20%以上の売り上げを伸ばしているということがあります。私もこれ議会では申し上げましたけれども、平戸であったりとか松浦町から、よかったと、武雄でがばいばあちゃんをしてもらってよかった、お泊まりは全部こっちに来っぺいんということを言われて、私はそこの名誉町民でもさせてもらおうかなと思うぐらいのお褒めの言葉をいただいたんですね。

私はやはり、これは私の考えなんですけれども、やっぱりこれを途切れさせることなく、しつこくやっぺいっていくこと、これが非常に大事だというふうに思っています。それをやらないと、また批判が、ああ、一過性で終わったと。私はだから、そういう意味では、しつこくやっぺいっていく必要があるのではないかなと思っています。

あと、映画の件に関しては、これは鹿島市さんがお金を320万円も出してやっぺいいただいていますので、これは武雄市としては助かったばいということをお思っています。今後、ドラマの2に関しては水面下で今話をしておりますけれども、ちょっと東京——フジテレビであったりとか共同テレビであったりとか、主演に予定されている泉ピン子さんの日程であるとか、原作者の方とか、さまざまな調整が必要だというふうに聞いておりますので、これも今度は予算を投じることなく応援、市民の皆さんたち、あるいは議会、そして実行委員会が応援をするぞということであれば、私はぜひまた応援ができればいいなというふうに思っています。私はドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」を、市民皆さん、これはひとつ合併のある種象徴だという——これは西日本新聞にきちんと書いてありましたけれども、ある種合併の象徴だというとらえ方もしているんですね。ロケをしたときも、例えば山内の小学校とか北方の中学校の皆さんが、武雄の真ん中のほうにこうやっぺい一緒にやっぺいっていくという、経済効果でははかり知れない教育効果もあったと思うんです。だから、そういうことを大事にしなごら、私はまちづくりとセットとして考えていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

次に行きますが、市民病院です。医療改革のチラシについてお尋ねをします。このチラシですね。（チラシを示す）

保健所から指導を受けたということは聞きました。どのようなことを訴えたかったのか、これも聞かれました。コンビニ診療を助長するような内容ではなかったのか、これも聞かれました。当直医は書いてあるが、日常の医療体制はわからない。——これは、まだだれも聞いていないですよ。これを教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

日常の外来でございますけれども、武雄市民病院では、こういう形で（資料を示す）専門外来担当表というのを置いています。この中で、9月1日からの体制については、もう既に出していますので、これを見ていただけるとわかると思いますけれども、まずもって、外科につきましては、樋高院長が5日間対応をするようにしています。樋高院長はまた、あわせまして総合診療という形をとっております。あと、消化器内科並びに整形外科、脳外科、これは常勤の医師で対応をしております。あと、循環器内科、呼吸器内科等につきましては、今年4月から、同様の佐大からの非常勤の医師において週2回並びに1回等々で対応をしております。また、泌尿器科についても、佐大からの非常勤の医師で週3日の外来診療を行っているということで、これは4月段階から何も変わりません。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

消化器内科の先生がまた1人やめられるんですか。で、このローテーションがまた変わってくるんですか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

9月2日の新聞報道によります2名の退職というのは外科医2名でありまして、消化器内科の医師の去就については私も聞いておりません。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ということは、今後ずっとこれで行かれるわけですね。

それでは、チラシは……（発言する者あり）何ですか。議長、こちらのほうには注意され

ますけど、こちらのほうにも一応注意しとってくださいね。

**○議長（杉原豊喜君）**

いや、今の質問に対して、ちょっとこう何か……

〔13番「協議をされておった。ありますか、何か」〕

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

答弁申し上げます。これは大事な問題ですので、私からお答えします。

勤務ローテーションについては、先ほど事務長がこれで行くということでありましたけれども、これ、基本的にもっと拡充させる方向で行きたいというふうに思っております。と申し上げますのも、これから冬の季節になると、やっぱり風邪の患者さんたちがふえてまいります。基本的に佐賀大学の医学部にもお願いをし、そして池友会にもまたきちんとお願いをしたいと思っております。池友会からは、入院患者様がふえるといった状況には機敏に対応したいということを受けております。修正させていただきます。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

このチラシ——チラシというか、武雄市民病院ニュース。（チラシを示す）このことで、これはさっきの、こっちのチラシと違って、指導とかなんとかは受けなかったんですね、これはね。それと、ここにグラフがありますよね。アンケートの結果。先ほど武雄町民の声のアンケートは数十、何人からもらいましたと。これは何人からいただいたのかわかりませんよね、パーセントでしか書いてないから。このパーセントというのは何人でしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

伊藤市民病院事務長

**○伊藤市民病院事務長〔登壇〕**

このアンケートにつきましては、8月11日の救急再開以来、ウオークインなりで来られた患者さんに任意でお願いをしました。応じていただいた方については、たしか36名ぐらいだったと思います。したがって、このアンケートはその数ということになると思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

36名からいただいたアンケートを公表して出されているということですね。はい、ありがとうございます。

続きまして、あそこの玄関ば改造したですね。何というのかな、救急センター入り口、そ

の工事をしたときに、きのうもおっしゃっておいりましたけれども、これは入札はしていないんですね。そして、どういう形で発注をされたのか。相見積もりをとったとか、武雄市内業者を何軒当たったけれども、だれもいなかったとか、そこら辺のこともあわせて答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤市民病院事務長

○伊藤市民病院事務長〔登壇〕

この工事内容については、初日の江原議員のときに御説明をいたしましたと思いますけれども、入り口及び事務室並びにこれは1階の関係ですね。並びに救急診療室の床の補正、それから、1階廊下の照明の追加並びに医師を1階に置くということで、看護師詰所の内装のやり直しなど、いろいろ多岐にわたっての複合的な修繕工事を行ったということでもあります。したがって、修繕工事につきましては、入札という方式はとりませんので、そのような形で進めさせていただきました。

それと、時期がちょうどお盆に差しかかっておりましたので、これについては、市内の何軒を当たったということではなくて、ストレートに池友会派遣の事務職員に、これに応じてくれる方はいらっしゃらないかということで内部協議しまして、福岡の業者をお願いをしたということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

地元業者には何も当たらなかった。そして、真っすぐ池友会関係の工務店に頼んだ。相見積もりも何もとらなかった。見積もりをもらってからその工事に入ったんでしょうね、当然。だったら、何も比べようがないじゃないですか。幾ら事務長の決裁の権限があるからといって、何の比べようもないものをできるんですか、そういうことが、武雄市民病院では。びっくりしました。このこともずっとまた問題になってきますよ。

次です。いろんなところで市長は説明会をされているようであります。市長がされておるのか、だれがされておるのか知りませんが、いろんなところに、市長の御自分のブログにも載っておりますし、いろんなチラシなんかも出ております。そこには市長が何人かと行っておられるというふうに書いてあります。いつどこでだれがどのようにして、その説明会をされているのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御説明申し上げます。

大きく2つ説明会をしております。1つは区長会主催であるとか、区長さん主催、そして、地元の市議会議員の方の主催、この2つ、大きく分けてやっております。平たく言うと、事務と政務で2つに分けてやっております。

どこでどうやったかについては、8月1日武内公民館、これは古賀副市長。8月4日若木町公民館、これは私。8月4日朝日町公民館、主催者は朝日町の区長会で、これは私が行っております。等々、8月5日、6日、10日、11日、20日、22日、30日、9月3日、9月9日、9月19日等、手分けをしてやっております。私も行けるときは最大限これは行こうというふうに思っておりますし、場合と必要に応じては、これは区民、区長さんの特に御意向に従おうと思っておりますけれども、池友会の鶴崎理事長がみずから説明をしたいということでもありますので、それは応じてやっております。

あわせて、政務で行う場合は県議員にお願いをしたりとか、あるいは市議の地元以外の方をお願いをしたりとか、さまざまな形でやっております。基本的には、政務のときは、これは政務でありますので、職員を入れないようにはしております。事務のときは職員にしっかり準備をして、区分けをしてやっております。

いずれにしても、開催する方がどういうふうで開催をするかに応じて、場所であるとか時間であるとか、やり方であるとか順番であるかというのは協議をしてやっております。今後ともふやしていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

その説明会の際の市長の発言です。朝日町の敬老会、また、消防団の夏季訓練で、市長はそういうふうに言われましたか。もう時間がありませんのでこっちから言いますけど、一部の反対をしている人がいると言いましたか。今うなずきましたね。心ない人がいるということも言いましたか。これを聞いた人がいるんですよ。心ない人ですか、反対をすれば。大変なことですよ、これは。と僕は思いますけどね。

市長、心ない人という表現をするときには、一緒にこのまちを考えていこうという人たちに言うような言葉じゃないですよ。しかも、その人の目の前で言っているわけですよ、そこにおられるときに。一部の心ない人たちがいると。だれかわかるでしょう、その方は。自分のことだろうなあって。そのくらいに憤慨されているんですよ。その本人さんの口から言えないから、私がかわりにきょうは言いました。そのことについて、市長はそういうふうに謝罪をされますか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長



### ○樋渡市長〔登壇〕

私は一部の反対する人ということは申し上げました。一部の心ない人ということも申し上げました。その反対する人と心ない人を分けて申し上げております。反対する人というのは、もう明確に反対をされています。心ない人というのは、私には、例えばデータを私からすれば意図的に、何と言うんですかね、ねじ曲げとは言いませんけれども、これは議会答弁でもいたしましたけれども、そういった方々もいらっしゃるわけですよ。だから、私は特定の方を特定のように言ったわけではなくて、そういうデータをされている方であるとか、そういういろんな例えば集会とかで、本当にこれは私も聞きますけれども、ちょっと事実と違うなということ、そういったことを指して、私は心ない人であるというふうに申し上げた次第であります。一部の反対する人というのは、私は——よろしいでしょうか。

〔13番「時間ないから、さっと言って」〕

私は一部の——失礼しました。反対する方というのは、一緒にまちづくりをしていこうというふうに思っております。しかし、心ない人というのは、もう本当に心の痛むような誹謗中傷をされる方、それを指して私は申し上げた次第であります。だれか特定の個人の人を指して申し上げたつもりはございません。

### ○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

### ○13番（前田法弘君）〔登壇〕

だから、個人の人を指して言っていないにしても、市長がそういう表現をしていいんですかということを私はきょう言いたかったし、本当ならここで謝ってもらいたかった、その方たちに対して。そうでないと、その人たちは浮かばれんじゃないですか。心ない人って、反対すれば何でも心ないんですか。ということをお願いして、終わります。